



外国出張報告書

平成 27 年 8 月 5 日

1. 出張国名 ラオス
2. 出張月 平成 27 年 6～7 月
3. 出張目的 雨季水稲試験の準備及び開始、雨季初期の土壌水分計測、データ回収：C

4. 成果の概要

共通研究サイトであるナムアン村の低地水田の土壌水分観測結果から、4月以降の降雨により土壌水分は概ね圃場容水量に達したものと見られ、初期用水量は飽和水分量と圃場容水量の差と、地下水までの深度から概算されるものと考えられた。ラオス農業研究センター（ARC）とナムアン村において、移植時期を2週間隔4時期に設定した水稲収量比較試験を開始し、初回および第2回の移植を終えた。初期状態での有効態リン濃度は、ARC圃場では1区画を除き有意差なし、ナムアン圃場では処理区間に有意差がないことを確認した。両圃場間では、ARC圃場が高い有効態リン濃度を示した。サワナケート県クッキー村では、陸稲-水稲の組合せ試験を開始し、水稲区の移植と観測機材の設置を完了した。